

発達段階に応じた安全な使い方とルールやマナーを指導しましょう

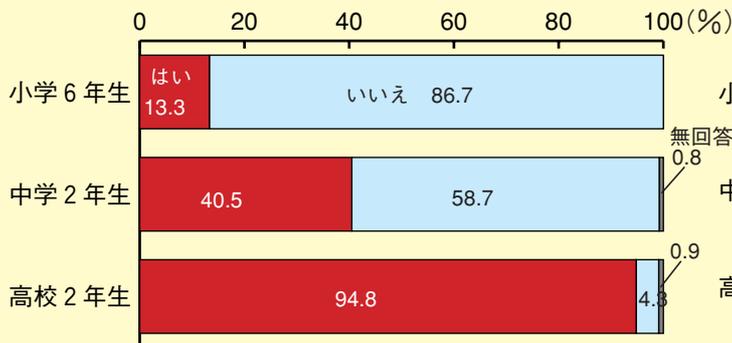


図1 自分専用の携帯電話を持っていますか。
(小学校：n=626 中学校：n=484、県立学校：n=555)

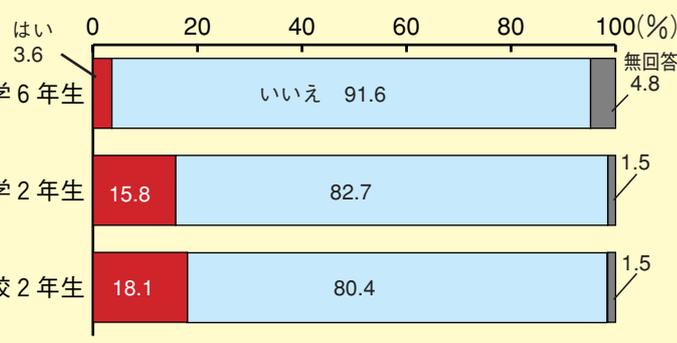


図2 知らない人からのメールに返事を出したことがありますか。
(小学校：n=83 中学校：n=196、県立学校：n=526)

自分専用の携帯電話を持っている子どもの割合は、小・中・高と進むにつれ高くなり、高2では9割以上になります(図1)。

成長過程にある子どもは、まだ情報に対する判断力が十分でないため、事件事故やトラブルに巻き込まれたり、有害情報による悪影響を受けたりする傾向が高い状態にあるといえます。また、校種を問わず、ほとんどの子どもがインターネットを使用しているというアンケート結果もでています。既にインターネットや携帯電話を利用している子どもが多いことから、やってはいけないことや使用する上で注意することなどを具体的に指導することが必要です。

知らない人からのメールに返事を出したことがある生徒は、中・高では2割弱になります(図2)。

ちょっとした試みがきっかけで巻き込まれる事件事故の怖さや、個人情報保護の重要性を理解させ、怪しいホームページへのアクセスや掲示板への参加、メールの送信を、自制できるようにする指導が必要です。また、自他を問わず、氏名、電話番号、eメールアドレスなどの個人情報を安易に送信しないように指導しましょう。

情報の判断力・コミュニケーション能力を育成しましょう

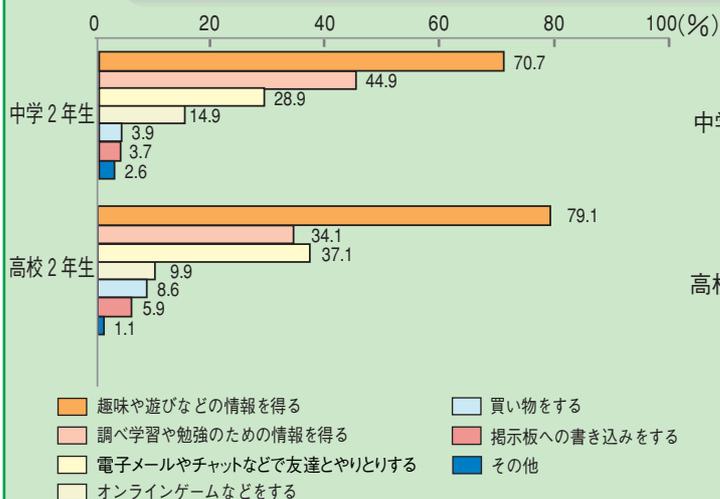


図3 インターネットを利用する主な目的を次のうちから二つ選んでください。
(インターネット(携帯のメールを含む)を使った経験があると回答した者)
(中学校：n=457、県立学校：n=545)

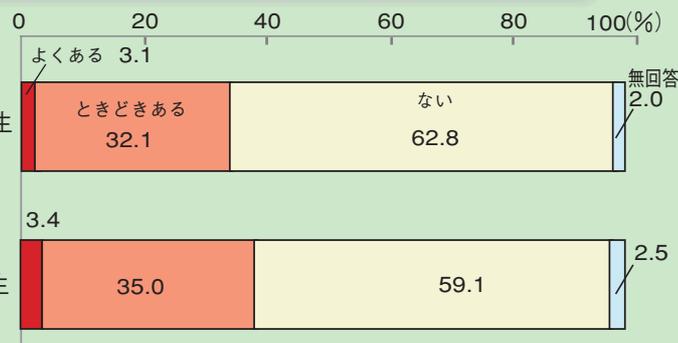


図4 友達・知人からのメールを読んだとき、いやな気持ちになったり、失礼だと感じたりしたことがありますか。
(自分専用の携帯電話を持っていると回答した者)
(中学校：n=196、県立学校：n=526)

生徒は、インターネットを、情報収集やコミュニケーションの手段、遊びのツールなど様々な用途に活用しています(図3)。

情報を的確に判断し主体的に選択できる能力や、コミュニケーション能力を育成していくことで、日々変化していく情報ツールを安全・安心して活用することができるようになるはずですが。

しかし、このような能力は、一朝一夕に身に付くものではありません。「情報教育」の目標である「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」を再確認し、小学校から高校まで、発達段階に応じた体系的な情報教育を実践してください。

メールによる生徒のコミュニケーションは活発ですが、4割近くの生徒が、友達・知人からのメールを読んでいやな気持ちになったり、失礼だと感じたりした経験があります(図4)。

メールや掲示板などの文字中心のコミュニケーションは、友人関係のトラブルや犯罪に巻き込まれるきっかけとなることがあります。

対応としては、文字によるコミュニケーションの特性を理解させるとともに、利用上のルールやマナーを指導することが必要です。それとともに、十分な時間をかけて、相手を思いやる心や自分の意思や用件をきちんと伝えるための表現力を育成していくことが大切です。